第７７号　令和７年３月３１日発行

# 埼玉産業教育

埼玉県産業教育振興会

## 『 専門高校で学びに向かう力を育てる 』

県立大宮工業高等学校
マイスター・ハイスクールＣＥＯ
執　筆　者　前田　稔

コロナ禍以降、IT 技術の発展・普及を契機に社会環境が急速に変化している。文部科学省の学習指導要領は「知識・技術」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力」の 3 本を柱に「生きる力」を育むことを掲げているが、産業界の変化の影響を直接受ける専門高校は、急速な変化に対応し「知識・技術」中心の教育から「思考力・判断力・表現力等」の育成に舵を切ろうとしている。職業教育から産業人材育成へのシフトといえるこの取組は「不易流行」を意識した取組として大いに評価に値するが、在学中および卒業後の生徒の成長を最優先するのであれば、筆者は「学びに向かう力」の発掘･涵養こそ最重視すべきで「思考力・判断力・表現力等」はその結果として表出されるものと考えている。

「思考力・判断力・表現力等」の客観的評価指標として教育関係者の間でコンピテンシーが注目されている。産業界や官公庁では「コンピテンシー評価」を 20 年以上前から取り入れ、評価のための詳細なマニュアルを作成している組織もあるが、実際のところ有効に機能している組織はそう多くはない。企業で有効活用されていない原因は、要求水準が高すぎてその基準を満たす幹部社員がいない、行動面の評価ができるほど部下を観察していない（余裕がない?）などの理由で、制度はあるが厳正な運用ができないからである。そもそも、コンピテンシーとは業績優良者が日頃行っている行動を評価軸に作成した「行動評価」の指標であり、この通り行動すれば業績優良者になるという訳ではない。このため、コンピテンシーを目的化する理由はなく、あくまでも成長度合いのチェックに利用するのが賢明である。

一方、教育の世界でコンピテンシーの話題を出すと、往々にして「ルーブリック」と捉えられ、真面目な先生方は「こう育てなければいけない」と使命感に燃え、結果として目的化してしまう傾向が強く、ディシプリンとなる懸念がある。その弊害は、生徒が「やらされ感」を感じる、個性が失われる危惧を感じるなどであり、そうしたやり方は「個別最適」「個に応じた指導」と相反するという大きな欠陥もある。

筆者も２年前にコンピテンシー評価表を作成したが、その目的は「社会人となったらこういう所を見られるよ」ということを知ってもらうためで、自己評価をしてみて、基準に達しているところでも更に上位の姿があることや自分の足りないところを自覚してもらうことに重点を置いた「行動振返りシート」としての活用である。

自己評価の結果は、大学のアドミッションポリシーや企業の「求める人材」との適合性を判断した進路決定や就職・進学の際の面接において大いに役立つと思っているのだが、数人の先生方を除いて理解してもらえない状況である。

コンピテンシーが目的でなく結果であれば、結果をあげるための方策は何か、ということになる。それが「学びに向かう力」であると私は考える。そのためには、学びたいと思わせるキッカケ、機会を多く与えること（例：産業界講師による授業等）、失敗を糧に本人の力で成功する体験を与えること（例：校外向けプレゼン発表や課題研究）の効果は絶大である。「キャリア決定の 8 割は偶然がもたらす」（経験的偶発性理論）機会の提供や失敗経験が学びに繋がる機会は自己効力感を育む大きなチャンスであり、過保護な指導が生徒の成長機会を奪いかねないことも肝に命じたい。専門高校から大学に進む生徒も増えているが、大学での自発的な学びの準備過程としての専門高校の優位性は高い。先生方が楽しみながら生徒の成長に寄り添える、そんな産業教育に期待したい。

# 地方産業教育審議会の建議
# これからの本県専門高校の在り方について
# ～次代を見据えた職業人材の育成を目指して～

埼玉県地方産業教育審議会は、条例の定めるところにより、県内で行われる産業教育に関する事項について、教育委員会又は知事の諮問に応じて調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会又は知事に建議することを所掌事務とする県教育委員会の付属機関である。

審議会では、令和５年９月から４回にわたり、「これからの本県専門高校の在り方について」を審議題として審議が行われた。

具体的には、ウェルビーイングを実現できる社会への転換、デジタル化の加速度的な進展、第４期教育振興基本計画の策定、高等学校ＤＸ加速化推進事業の立ち上げ等を背景として本県の専門高校の現状と課題を踏まえ、専門高校の中長期的なビジョンとして、「地域産業の持続的な成長をけん引する専門的職業人材の育成」を掲げ、今後の方向性を示し、次代を見据えた専門高校の魅力を高めるための方策を多方面から検討してきた。

この度、令和７年２月１８日に、埼玉県地方産業教育審議会（会長 埼玉大学 坂井貴文 学長）から、埼玉県教育委員会（日吉亨 教育長）に建議が提出された。

方策として、「⑴ 未来社会を切り拓くための資質・能力の育成」、「⑵ 専門性の高い指導者の育成・配置」、「⑶ 魅力ある専門高校づくり」の３点が示された。

建議のおわりにでは、県教育委員会として、産業教育の更なる発展に向けての施策や取組への反映と、本県産業教育が持続可能な産業や社会を支える職業人材の育成につながることへの期待が述べられている。

紙面の都合上、建議の概要図についてのみ示すが、本編についても、次のURLより御覧の上、御一読いただければ幸いである。

https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/tisannnsinn.html

令和6年度埼玉県地方産業教育審議会(建議)

## 「これからの本県専門高校の在り方について」

～次代を見据えた職業人材の育成を目指して～

**背景**

社会の状況 ●「ウェルビーイング」を実現できる社会への転換 ●デジタル化の加速度的な進展

国の動き ●「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトに教育政策を推進
●「高等学校DX加速化推進事業」の立ち上げ

**専門高校の現状と課題**

⑴ 現状
- ●社会において求められる知識や技術・技能の変化
- ●進路希望の変化
- ●専門学科の志願倍率が低迷

⑵ 課題
- ●地域の産業界と連携した先端技術の活用など学習指導を充実
- ●職業教育に加え、進学も見据えた高等教育機関等との連携強化
- ●専門高校の魅力や教育内容を伝える広報活動の工夫

**ビジョン** 地域産業の持続的な成長をけん引する専門的職業人材の育成

**これからの専門高校改革の視点**
- ●地域産業界を支える実践的な職業教育と、高等教育機関等と連携・協働した先取り履修等の取組の推進
- ●時代の変化に対応した社会に開かれた教育課程の実現と学科間連携の推進
- ●学び続ける教師の育成と外部人材との連携の強化
- ●最先端の学びを主体的に行っている専門高校の魅力発信の強化

**次代を見据えた専門高校の魅力を高めるための方策**

⑴ 未来社会を切り拓くための資質・能力の育成

ア 産学官の効果的な連携体制の構築
（例：産業界や高等教育機関との連携による共同研究等）

イ 教科等横断の視点を入れた教育課程の編成
（例：他の専門高校と授業の時間帯を合わせた学科横断的学習）

ウ 教育ＤＸの推進
（例：ＶＲなどの先端技術を活用した職業体験・実習活動）

エ キャリア教育の一層の推進
（例：インターンシップやデュアルシステムの実施）

⑵ 専門性の高い指導者の育成・配置

ア 専門性の高い指導者の育成
（例：大学や企業から最新の知識・技術を学ぶ機会の充実）

イ 専門性の高い指導者の配置 （例：実務家教員の配置）

⑶ 魅力ある専門高校づくり

ア 専門学科共通事項
- ・専門高校の魅力発信（例：魅力発信に係る連携先との協力関係の構築）
- ・地域に根差した学科の改編等（例：複数の大学科からなる専門高校の設置）

イ 各学科の個別事項

【農業】
- ・６次産業化に関する学びの推進
- ・持続可能な農業及び農福連携の推進

【工業】
- ・新技術に対応できる学びへの転換
- ・ＰＢＬの推進と工業ＩＴ科目の導入

【商業】
- ・アントレプレナーシップ教育の推進
- ・地域学を通したビジネス教育の推進

【家庭】
- ・他教科・他学科との連携の推進
- ・産学官の連携の推進

【看護】
- ・高大連携の一層の推進
- ・地域連携の推進

【福祉】
- ・ボランティア精神の育成
- ・実践的な職業指導とICTを活用した教育の推進

# 未来の職業人材育成事業

１　事業の趣旨

地域の活性化や産業振興に貢献できる人材を育成するため、専門高校等の生徒と企業等が連携する職業教育により、専門的な知識や技術を習得させるとともに、商品開発能力や技術開発能力を身に付けさせることを目的とする。

２　各校の取組（抜粋）

⑴ 秩父農工科学高校（農業科）

秩父農工科学高校農業科では、埼玉県オリジナル品種のイチゴ「あまりん」を栽培している。付加価値を高めるため、地元の農園と連携し肥料の研究や害虫対策を行うなど、栽培に適した環境づくりに工夫をした。また、かき氷用イチゴシロップに加工して販売するなど、特産品を広める取組となった。

イチゴの水耕栽培

収穫前の様子

⑵ 狭山工業高校（電子機械科）

狭山工業高校電子機械科では、地元狭山のお茶農園と連携し「狭紅茶」の開発と普及に取組んでいる。令和６年度は世界に通じる紅茶を目指し、過去に開発した発酵機や萎凋機に改良を加え、より良い紅茶を開発、複数のコンテストに応募した。結果、「日本茶 NextGeneration」の大会において準大賞を受賞した。

改良した発酵機

コンテスト授賞式

⑶ 深谷商業高校（商業科）

深谷商業高校商業科では、授業で学んだマーケティング等の知識を生かし、７班に分かれそれぞれが企業と連携した商品開発に取組んだ。

地元の洋菓子店と開発した「おばけのシュークリーム」は、デザインだけでなく、栄養素を考え季節の食材を使用するなど、お客様の視点に立った商品となるよう工夫した。

どの班も、顧客のニーズを捉えた商品開発を研究した取組となった。

開発商品

企業との打合せの様子

⑷ 越谷総合技術高校（食物調理科）

越谷総合技術高校食物調理科では、IKEA 新三郷店と東洋大学と連携し、社員食堂のメニューの開発・販売を行った。開発を通して、社員の方の授業による企業理解や大学の調理学の視点を取り入れたプラントベースの活用方法等、産学官連携した実践的な学びの取組となった。

試食会の様子

開発したコラボプレート

３　成果発表

令和７年２月７日（金）に成果発表会を実施した。代表校６校が各専門学科の特色ある取組を発表し、協力企業等の皆様や県内中学校などに対し、広く情報発信することができた。

下記のＵＲＬ（高校教育指導課ホームページ）に、当日の発表動画を掲載している。

https://www.pref.saitama.lg.jp/f2208/senmonkoukou/mirai-syokugyojinzai.html

４　令和６年度事業実施校（五十音順）

いずみ高校、岩槻商業高校、浦和商業高校、大宮工業高校、大宮商業高校、春日部工業高校、川口工業高校、川越工業高校、川越総合高校、久喜工業高校、熊谷工業高校、熊谷商業高校、熊谷農業高校、鴻巣女子高校、越谷総合技術高校、児玉高校、幸手桜高校、狭山経済高校、狭山工業高校、進修館高校、杉戸農業高校、誠和福祉高校、秩父農工科学高校、常盤高校、所沢商業高校、戸田翔陽高校、新座総合技術高校、鳩ケ谷高校、羽生実業高校、深谷商業高校、三郷工業技術高校、皆野高校

計 32 校

# マイスター・ハイスクール事業

## １　事業の概要

本事業は、DXやIoTの進展など急速かつ絶えず革新する産業構造に対応するため、産業界と専門高校が一体となったデジタル人材育成のモデルを構築することを目的とし、文部科学省が令和３年度から実施している事業である。
埼玉県では、令和４年度から大宮工業高校を実施校として、産業界と連携した教育カリキュラムを開発し実践するとともに、教職員の技術力の向上を図る拠点校とすることで、県内全ての工業高校生を次世代マイスターとして育成することを目指してきた。

## ２　令和６年度の実績

### ⑴ 産業実務家教員による授業

実習や課題研究等の授業において、現在企業等で扱われている知識・技術を、企業等の技術者から直接学んでいる。熊谷保健所と連携した“マイスイッチ”の製作や、埼玉県の高温出現についての解析・研究は、令和５年度から引き続き実践している。

### ⑵ 新しいカリキュラムの研究

産業実務家教員と協働で実践してきた研究テーマの中には、実習テーマとして採用されているものがある。「RPA実習」や「ドローン実習」は授業に組込まれ、企業の技術者から習得した知識・技術を生かし、実習担当の教員が実践している。

企業等との連携により最新機器に触れ、新たな学びを構築することは生徒にとって良い経験となる。学校においても既存の施設設備を活用し新しい知識・技術を取り入れ、継続的な学びにつなげたい。

### ⑶ 「学際的な学び推進事業」との連携

夏休みを利用し、大宮工業高校の施設設備を利用したものづくり研修会を実施した。参加生徒は春日部女子高校、松山高校の生徒合わせて８名である。午前は３Dプリンタを使用したネームプレート製作においてCADを体験した。午後は、与えられた課題から図面を作成、レーザー加工機で加工までを行った。指導は大宮工業高校の生徒が行ったが、ただ教える、教わるの関係ではなく、情報交換を行うなど深い交流に繋がった。

### ⑷ 成果発表

全国産業教育フェア、埼玉県産業教育フェアにおいて生徒による実践発表を行った。発表テーマは「マイスター・ハイスクール事業と私」とし、これまで実践してきたことから何を学んだのか、自身の変容についてスピーチを行った。

また、埼玉県産業教育フェアでは、これまで御協力いただいた企業の方に対し感謝状を贈呈した。

ものづくり研修会

産業実務家教員による授業

企業へ感謝状贈呈

成果発表会

## ３　取組の継続について

埼玉県教育委員会では、大宮工業高校で実施してきたマイスター・ハイスクール事業における産業界など外部との連携の仕組みを、他の学校へ展開することを計画している。

事業の目的は、地域における産業界等と高校が連携し、最新技術や企業のDXへの流れに対応できる専門教育が実践され、地域産業を担う人材が持続的に育成・排出していくこととしている。

展開にあたり、コンソーシアムの設置を推進していくが、学校と産業界等との持続的な連携体制の確立、地域ニーズの把握、小中学校への魅力発信につながるよう、設置する学校の特色や地域性を加味し、各学校が持つ設備や産業界との繋がりを生かしながら進めていく。

工業高校全体の教育体制の刷新を目指し、産学官が協力した取組を実践する計画である。

## 埼玉県高校生専門資格等取得表彰奨励事業

埼玉県高校生専門資格等取得表彰は、埼玉県内の高等学校及び特別支援学校の高等部、中等教育学校の後期課程に在籍する生徒（以上私立も含む）が、職業資格の取得や技術検定等によって技術・技能の習得に努めることを推奨し、将来、社会で活躍できる産業人の養成を目的として実施している。知事が、表彰の条件を満たした者に専門資格等取得表彰を授与し、その事務について埼玉県産業教育振興会長が委託を受けている。

表彰は、①資格取得によるもの（各資格をポイント化し、２種目以上から合計９ポイント以上を取得した者）と、②全国的な活躍によるもの（全国的な大会等へ出場及び発表し、入賞以上の成績をあげるなど、その内容が優秀な者）の２種類がある。また、前期と後期の２回表彰される機会があり、それぞれ専門資格等取得表彰認定委員会において審議される。

以下に、令和６年度における専門資格等取得表彰認定委員会活動報告、及び認定者数を紹介する。

○第１回埼玉県高校生専門資格等取得表彰認定委員会
内容　議事
⑴ 本事業の実施について
⑵ 表彰区分の見直しについて

○第２回埼玉県高校生専門資格等取得表彰認定委員会
内容　議事
⑴ 資格等取得による表彰の認定
⑵ 全国的な活躍による表彰の認定

○第３回埼玉県高校生専門資格等取得表彰認定委員会
内容　議事
⑴ 資格等取得による表彰の認定
⑵ 全国的な活躍による表彰の認定
⑶ 来年度の要項について

令和６年度の表彰者数

| 教科 | 資格取得 | 全国的活躍 |
|---|---|---|
| 農業 | １３１ | 0 |
| 工業 | ５５９ | 0 |
| 商業 | １，４１９ | 0 |
| 家庭・看護・福祉 | ８１ | 0 |
| 総合学科 | １９５ | 0 |
| 普通科 | １３２ | 0 |
| 特別支援 | 6 | 5 |
| 合計 | ２，５２３ | 5 |

## 専門高校体験入学報告

１　実施内容

県立の専門高校等３１校において、７，２８６名の中学生、５，５２３名の保護者が、特色ある授業を体験した。実施内容は、以下のとおりである。

○農業

バイオ体験、パン作り、トラクター、稲刈り、野菜収穫、動物ふれあい、フラワーアレンジメント、酵母ビーズ、木工、寄せ植えなど

○工業

測量、電子工作、ＣＧ、プログラミング、CAD、化学製品、レーザー加工、溶接、３Ｄプリンタ、木材加工、旋盤、製図、ドローンなど

○商業

マクロ、簿記、原価計算、経営分析、表計算、商取引、VBA、財務分析、ラッピング体験など

○家庭・看護・福祉

看護体験、福祉、車イス体験、点字、血圧測定、調理体験、被服体験、保育体験など

２　実施状況

| No. | 学校名 | 実施日 | 参加中学生数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 熊谷農業高校 | 10/19.11/30 | 263 |
| 2 | 杉戸農業高校 | 8/24.10/12 | 384 |
| 3 | 秩父農工科学高校 | 7/13,8/20,8/218/,22.10/19 | 599 |
| 4 | いずみ高校 | 7/29.8/24.9/14.10/12.11/9 | 1052 |
| 5 | 児玉高校 | 10/5 | 85 |
| 6 | 羽生実業高校 | 11/16 | 52 |
| 7 | 鳩ヶ谷高校 | 8/19 | 269 |
| 8 | 川越工業高校 | 8/19.8/20. | 258 |
| 9 | 川口工業高校 | 11/14 | 72 |
| | 川口工業高校(定時) | 11/14 | 1 |
| 10 | 進修館高校 | 10/5 | 29 |
| 11 | 熊谷工業高校 | 8/20.21.9/14 | 516 |
| 12 | 狭山工業高校 | 9/28 | 94 |
| 13 | 大宮工業高校 | 7/30 | 168 |
| | 大宮工業高校(定時) | 12/25 | 8 |
| 14 | 久喜工業高校 | 8/22.10/26 | 295 |
| 15 | 春日部工業高校 | 8/19 | 242 |
| 16 | 新座総合技術高校 | 9/7 | 234 |
| 17 | 三郷工業技術高校 | 9/21,10/19 | 95 |
| 18 | 越谷総合技術高校 | 9/21 | 227 |
| 19 | 深谷商業高校 | 8/1.8/3.8/4.8/6 | 472 |
| 20 | 岩槻商業高校 | 7/31 | 69 |
| 21 | 浦和商業高校 | 8/1 | 220 |
| 22 | 大宮商業高校 | 7/30 | 152 |
| 23 | 熊谷商業高校 | 8/2.8/21.10/6.10.12 | 316 |
| 24 | 所沢商業高校 | 8/9 | 94 |
| 25 | 狭山経済高校 | 7/26.10/5 | 278 |
| 26 | 鴻巣高校 | 8/20 | 34 |
| 27 | 八潮南高校 | 7/27 | 104 |
| 28 | 鴻巣女子高校 | 8/20.10/5. | 96 |
| 29 | 常盤高校 | 10/12 | 104 |
| 30 | 誠和福祉高校 | 10/12 | 36 |
| 31 | 川越総合高校 | 7/26.7/27 | 368 |

# 学校環境緑化コンクール優秀校の作品

## まじめな子あかるい子がんばる子チャレンジ安行
埼玉県川口市立安行小学校

生徒数約 900 名の大規模小学校である。環境教育計画と教育課程の位置付けが明確化されており、各教科や分掌、委員会、保護者、地域ボランティア、地域社会等が組織的に活動している。

①楽しみながらのエコ活動、地域の自然に根付いた循環型の緑化活動

②地域との連携・地域への発信　－安行はひとつ－

【特色ある取り組み】

①身近な地域の自然に親しみ、自然のよさを味わうことで、環境への気づきを大切にし、自分なりの表現で行動できる児童の育成を目標にしている。各教科では、自然体験、生産活動などの体験的な活動や調査を通して、自然保護や環境保全について、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成しており、緑化や環境に関連した学習を行っている。４年生では【はなもく散歩】を活用して１年通じて１本の樹木の季節ごとの変化や、その樹木に関連する虫を調べ新聞にまとめている。その中でデジタル樹名板を活用するなどＩＣＴも含めた学習活動が特徴的である。学校にある樹木を活用し、どの科目でもタブレットの活用も盛んに行われており、緑化に関する調べ学習をはじめ、この活動を通じてＩＣＴ活用能力の向上に取り組んでいる。

樹木調査

学校コンポスト

②地域連携に力を入れており、地域ボランティアや環境アドバイザー、社会福祉団体、ＰＴＡ、おやじの会など多くの団体と連携して緑化活動に参画している。牛乳パックや古紙リサイクルはもちろん、稲作でも、児童・職員・ＰＴＡ、地域が一体となり、学校全体で緑化や環境活動を行っている。

地域連携(稲刈り)

社会福祉団体と連携

## 自然や樹木とふれあえる身近な学校
埼玉県行田市立西中学校

学校緑化活動については、委員会、ＰＴＡ（厚生部）、学校応援団が中心となって実施している。

①教科・領域における緑化・環境教育の視点を取り入れた年間指導計画の作成

②生徒を中心とした緑化・環境活動を実施

③ＰＴＡ、学校応援団や地域社会との連携による積極的な環境緑化活動

【特色ある取組】

①教育課程と環境教育の位置付けを明確にし、環境を大切にする生徒育成のため、実体験を重視している。その中で「総合的な学習の時間」や「課外活動」では、人間と自然のつながりを大切にしながら、地球環境の保護を意識的に実践している。また、体験的に環境・緑化教育を実施し、緑化や環境を常に考えさせ、身近にあるものと関連付けて主体的に取り組むことを意識している。その他、理科の各分野（生物・地学・化学・物理）だけでなく、技術・家庭科においても自然環境と関連付けて、環境や緑化に関する意識を高めている。

②各委員会活動では環境や緑化に関する内容を取り入れ、校内や近隣の環境美化や樹木管理、樹木プレート作り等、生徒が身近に感じられる環境や緑化に係る取組を多岐に渡って実施している。また、生徒会では、西中学校のシンボルツリーの桜をモチーフにしたキャラクターを作成している。

樹木の管理

委員会活動

③地域社会との連携も大切にしており、学校に協力を惜しまない地域や保護者と一緒に活動している。生徒による登校通学路清掃を実施したり、ＰＴＡ・学校応援団による西中ファームや学校の樹木剪定、除草作業等も地域の協力を得ながら実施したりしている。

登校通学路清掃

PTA 剪定･除草作業

# 産業教育に関する表彰

令和６年度　産業教育に関する表彰者
（敬称略、学年は受賞時）

1　埼玉県学校環境緑化コンクール入賞校
令和6年9月6日（金）県審査

○小学校の部
優秀校　川口市立安行小学校
（全日本学校関係緑化コンクールへ推薦）
〃　秩父市立久那小学校
〃　羽生市立岩瀬小学校
〃　久喜市立青葉小学校
優良校　さいたま市立浦和大里小学校
〃　熊谷市立大麻生小学校
〃　杉戸町立杉戸小学校
〃　春日部市立川辺小学校
良好校　さいたま市立辻南小学校
〃　本庄市立北泉小学校
〃　八潮市立中川小学校
〃　幸手市立権現堂川小学校
以上　12校

○中学校の部
優秀校　行田市立西中学校
（全日本学校関係緑化コンクールへ推薦）
〃　寄居町立寄居中学校
以上　2校

2　第 65回埼玉県児童・生徒発明創意くふう展　入賞者
会期　令和6年10月23日（水）～
令和6年10月24日（木）
場所　新都心ビジネス交流プラザ
◎埼玉県知事賞
堀口　竜　長瀞町立長瀞第一小学校
（作品名）車いすタイヤふき「楽らくん」
◎埼玉県教育委員会教育長賞
板垣　摘希　小川町立みどりが丘小学校
（作品名）焦らなくても大丈夫
根岸　湊　深谷市立明戸小学校
（作品名）お家　de　ウォーキング
小川　凛　川越市立富士見中学校
（作品名）犬用冷却装置　WAN！　COOL！
吉田　奏斗　狭山市立山王中学校
（作品名）大きな地震が来ても安全に避難できる装置
◎埼玉県産業教育振興会長賞
亀田　夕季乃　鴻巣市立赤見台第一小学校
（作品名）ゴムと本体が動かせるゴミ箱
井田　朋那　三芳町立上富小学校
（作品名）歯ブラシ水キャッチ
石川　陽也　白岡市立南小学校
（作品名）1人で3役　片手で OK
松田　響希　志木市立志木中学校
（作品名）CC ピン（Color Change ピン）
山路　唯純　本庄市立本庄南中学校
（作品名）SPIRAL　MULTI　BOWL
金井　智輝　深谷市立上柴中学校
（作品名）レインスーツをサゲルンジャー！！
（自転車通学時に使うレインスーツを駐輪場で効率的に干すハンガー）
◎埼玉県産業労働部長賞
黒木　展成　富士見市立ふじみ野小学校
中島　慧　飯能市立飯能西中学校
◎埼玉県発明協会会長賞
虻川　優花　川口市立根岸小学校
齋藤　結依子　寄居町立寄居小学校
小澤　紗璃　川越市立富士見中学校
古川　龍秀　越谷市立北中学校
◎NHK さいたま放送局長賞
浜崎　拓海　川口市立根岸小学校
◎テレ玉賞
風間　豊啓　川口市立東中学校
◎埼玉新聞社賞
石渡　結翔　久喜市立栗橋小学校
◎埼玉県商工会議所連合会会長賞
飯田　蘭太　蕨市立中央小学校
◎埼玉県商工会連合会会長賞
木島　菜月　東松山市立東中学校
◎埼玉県中小企業団体中央会会長賞
坂本　一真　さいたま市立指扇中学校
◎埼玉県経営者協会会長賞
新井　陽向　さいたま市立徳力小学校
◎埼玉経済同友会賞
星野　晃輝　三芳町立藤久保中学校
◎埼玉県中小企業家同友会賞
中村　将大　行田市立太田中学校
◎埼玉県小学校家庭科教育研究会長賞
上林　万啓　川口市立辻小学校
秋本　蒼空　さいたま市立大牧小学校
飯野　尋臣　川越市立今成小学校
青田　美陽　上里町立賀美小学校
松本　真央　行田市立北小学校
杉山　蓮翔　蓮田市立平野小学校
上田　英寿　幸手市立さかえ小学校
藪田　海人　さいたま市少年少女発明クラブ
◎埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞
吉田　さくら　川口市立岸川中学校
戸嶋　紗愛　さいたま市立植竹中学校

櫻井 莉奈　秩父市立秩父第二中学校
大家 葵　深谷市立豊里中学校
鈴木 楓香　久喜市立栗橋東中学校
片倉 瑞稀　越谷市立中央中学校
早坂 杏凛　久喜市立鷲宮中学校
宮口 大揶　三郷市立彦糸中学校

◎埼玉県工業教育研究会長賞
小池 妃星　さいたま市立泰平小学校
富山 菜月　鴻巣市立下忍小学校
小泉 熙悟　深谷市立幡羅中学校
佐藤 麗奈、千葉 紫月
埼玉県立川越工業高等学校
関 紗央莉　埼玉県立久喜工業高等学校

◎埼玉県発明協会特別賞
阿久津 愛奏 入間市立西武小学校
葩島 千裕　蓮田市立黒浜中学校

3 産業教育関係優良卒業生に対する表彰
○産業教育振興中央会
国公立高校 64人 私立高校 7 人
○埼玉県産業教育振興会
小学校 665人 中学校 412人
国公立高校 134人 私立高校 7 人

小中学校の支部別内訳

| 支部名 | 小学校 | 中学校 | 支部計 |
|---|---|---|---|
| 川口支部 | 52 | 28 | 80 |
| さいたま支部 | 93 | 63 | 156 |
| 北足立支部 | 141 | 69 | 210 |
| 入間支部 | 124 | 97 | 221 |
| 比企支部 | 6 | 15 | 21 |
| 秩父支部 | 6 | 12 | 18 |
| 児玉支部 | 21 | 8 | 29 |
| 大里支部 | 51 | 29 | 80 |
| 北埼玉支部 | 27 | 16 | 43 |
| 南埼玉支部 | 100 | 55 | 155 |
| 北葛支部 | 44 | 20 | 64 |
| 合計 | 665 | 412 | 1,077 |

4 産業教育功労者表彰
令和6年度産業教育功労者として、次の方々を決定し、令和7年度理事会兼総会（令和7年6月9日（月））において、表彰を行います。

【公益財団法人 産業教育振興中央会関係】
県立熊谷農業高等学校長　梅澤 仁
県立杉戸農業高等学校長　飯田 賢
県立川越工業高等学校長　田村 直治
県立浦和工業高等学校長　堀口 真史
県立上尾高等学校長　嶋村 秀樹
県立鴻巣高等学校長　矢島 誠
県立八潮南高等学校長　町田 徹
川口市教育委員会 教育長　茂呂 修平
さいたま市立白幡中学校長　長島 淑子
さいたま市立植水中学校長　山口 聡

あなたは多年にわたり産業教育の振興に尽力され多大の貢献をされました ここにその功をたたえ本会御下賜金記念産業教育功労者として表彰します
令和6年11月3日
公益財団法人 産業教育振興中央会長 浦野 光人

【埼玉県産業教育振興会関係】
◇会表彰規程第2条第1項及び第 4 項による表彰

県立熊谷農業高等学校主任実習助手　横田 浩邦
県立熊谷農業高等学校教諭　柴田 幸義
県立熊谷農業高等学校教諭　杉 資彦
県立久喜工業高等学校教諭　岩﨑 俊一
県立越谷総合技術高等学校教諭　長山 利幸
県立浦和工業高等学校教諭　平田 聡
県立浦和工業高等学校教諭　樋上 康
県立浦和工業高等学校教諭　土田 毅
県立浦和工業高等学校教諭　宿谷 義則
県立川口工業高等学校教諭　平野 直樹
県立児玉高等学校教諭　阿部 浩通
県立児玉高等学校教諭　高村 裕彦
県立児玉高等学校教諭　岡野 孝雄

あなたは多年学校教育に尽力せられ特に本県産業教育の振興に寄与された功績はまことに顕著であります よって本会表彰規程によりここに記念品を贈り表彰します
令和6年7月9日 会長 原 敏成

◇本会表彰規程第2条第3項による表彰
吉野電化工業株式会社
代表取締役社長　吉野 正洋

貴社は多年本県産業教育の振興に尽力せられその発展に寄せられた功績はまことに顕著でありますよって本会表彰規程によりここに記念品を贈り表彰します
令和6年7月9日 会長 原 敏成

令和6年度

# 小学校家庭科教育研究活動報告

埼玉県小学校家庭科教育研究会

今年度は、北部・秩父地区を研究指定地区とし、令和6年11月6日（水）に、第55回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会を参会者100名制限の参集型で、秩父市立影森小学校において開催しました。

1　総会並びに役員研修会
令和6年6月14日（金）With Youさいたま
⑴令和5年度事業等報告　6年度事業計画
⑵講演会　埼玉県教育局市町村支援部
義務教育指導課　指導主事 笹嶋京子 先生
「これからの家庭科教育について」

2　令和５年度第55回埼玉県小学校家庭科教育研究大会プレ授業研究協議会
〇6月26日（水）
第5学年　「食べて元気！ご飯とみそ汁」
秩父市立原谷小学校
授業者　5年1組　佐藤　有美　先生
指導　川口市立鳩ケ谷小学校主幹教諭
伊東　よお子先生
〇7月5日（金）
第６学年　「まかせてね　今日の食事」
秩父市立高篠小学校
授業者　6年1組　赤岩　萌　先生
指導　さいたま市立上落合小学校教頭
金子明日香先生

3　夏季研修会
令和6年8月9日（金）With Youさいたま
⑴4部会・専門委員会の活動
⑵指定地区の大会研究経過報告
⑶講演会　埼玉県総合教育センター
指導主事　山﨑　元美　先生

4　地区別授業研究会
10月24日　三郷市立吹上小学校
11月21日　さいたま市立西原小学校
2月 6日　日高市立武蔵台小学校
2月 7日　伊奈町立小針小学校

5　発明創意くふう展
10月23・24日　新都心ビジネス交流プラザ

6　役員研修会
6月14日、8月9日、2月4日

7　会報の発行
研究集録第55号「埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動状況」に掲載

8　研究集録の刊行
第55週の刊行

9　第55回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会
令和6年11月6日（水）秩父市立影森小学校
＜研究主題・副主題＞
「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～生活の営みに係る見方・考え方を効果的に働かせる指導法の工夫～」
＜研究の視点＞
視点1　実践的な態度を育むことを重視した指導計画の工夫
視点2　主体的･対話的で深い学びの実現に向けた授業展開の工夫
視点3　成長を実感できるようにする評価の工夫
視点4　家庭・地域との連携の工夫
⑴記念講演
「小学校家庭科における資質・能力の育成に向けて」
文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官　国立教育政策研究所教育課程研究センター開発部教育課程調査官
熊谷　有紀子　先生
⑵研究授業
第5学年「食べて元気！ご飯とみそ汁」
授業者　宮下　玲　先生
伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理の仕方や、米とみその種類、栄養的な特徴、だしの種類等を学習し、調理実習を通して基礎的な技能を身に付ける題材である。本時は、おいしいみそ汁とご飯のヒミツを探るため、実際に見たり触れたり試食したりと五感を使いながら学習課題を見出した。
第6学年「まかせてね　今日の食事」
授業者　赤岩　萌　先生
1食分の献立について、栄養バランスや調理計画を見直し、評価改善を行った。（紙面発表）

(3)研究協議会
指導者　埼玉県教育局市町村支援部
義務教育指導課　指導主事
笹嶋　京子先生

10　役員研修会
令和7年2月4日　さいたま市立上落合小学校
(1)令和6年度事業等報告・７年度事業計画
(2)令和7年度指定地区研究概要　さいたま市
(3)組織、各部・委員会の活動内容の見直し

# 令和6年度 中学校技術･家庭科教育研究活動報告

埼玉県中学校･技術家庭科教育研究会

関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会埼玉大会の開催を２年後に控え、体制のさらなる整備と研究を推進し、教員研究発表会でその成果を県内各中学校に共有した。出張参集の困難な状況が増加傾向にある中、可能な限り参集型としてオンラインを併用する等、蓄積したノウハウを活用して、組織の活性化を試みた。

県・全国の創造ものづくり教育フェア運営等についても同様に参集型を基本とした運営を目指し、生徒が活躍する場と技術・家庭科教育の成果発表の場を設定できた。全日本中学校技術・家庭科研究会主催の第24回全国中学生創造ものづくり教育フェアでは、創造アイディアロボットコンテストを主管した。

１　専門委員会

⑴第１回専門委員会

6月14日(金) 県民活動総合センター

○組織作り・分科会メンバー確認

○今後の研究に向けて(基本方針確認)

○指導助言　県立総合教育センター

⑵第２回専門委員会

8月21日(水) 県民活動総合センター

○部会ごとの研究推進

○埼玉大会の準備(研究推進)

○実践発表(ブース形式)

○講演会 文科省初中局　教科調査官

国研教育課程課　教育課程調査官

渡邊　茂一　先生

○フェア運営打合せ

⑶第３回専門委員会

12月6日(金) 県民活動総合センター

○これまでの研究に関する再確認

○教員研究発表会の開催に向けた準備

○指導講評

県立総合教育センター指導主事

加藤　　敦　先生

妻沼西中教頭　　大山　方住　先生

⑷教員研究発表会

2月20日(木) 県民活動総合センター

○全体提案・各部会の提案

○指導講評

県立総合教育センター指導主事

○講演会　文科省初中局　教科調査官

国研教育課程課　教育課程調査官

熊谷　有紀子　先生

２　支部長研修会・各種大会

⑴支部代表者会兼理事研修会(総会)

5月10日(金)　県民活動総合センター

○理事会・総会

○研究の進捗状況確認

⑵全日中理事研修会

6月1日(土) 女子栄養大駒込キャンパス

○令和5年度活動報告・決算報告

○令和6年度活動計画案・予算案審議

⑶関ブロ千葉大会理事研修会

6月17日(月) オンライン

○大会運営概要・研究中間報告

○指導助言（国研　教科調査官）

⑷第２回支部長研修会

9月13日(金)　県民活動総合センター

○関ブロ千葉大会申込状況確認・共有

○フェアの運営について

⑸ 関ブロ千葉大会

10月24日(水) 理事会･全体会オンライン

10月25日(金) 分科会　県内9会場

⑹ 関ブロ山梨大会理事研究会

2月25日(火)　オンライン

○千葉大会報告

○山梨大会の運営について・研究中間報告

○指導助言（国研　教科調査官）

⑺　第３回支部長研修会

3月7日(金) 県民活動総合センター

○令和6年度事業・専門委員会報告

○令和7年度事業計画案審議・組織案審議

３　SAITAMA創造ものづくり教育フェア

11月6日(水) 県民活動総合センター

○生徒研究発表会○生徒作品コンクール

○ロボットチャンピオンシップ大会

○おべんとうコンクール　等

11月14日(木) イオンモール与野

○創造アイディアロボットコンテスト埼玉県予選等

４　創造アイディアロボットコンテスト関東地区予選会（群馬）

12月1日(日) 藤岡市総合学習センター

５　第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア創造アイディアロボットコンテスト

2月1日(土) 東京都立六郷工科高校

# 支部だより（11支部）

川口支部

⑴　川口支部総会
令和６年７月（オンライン開催）
・令和６年度事業報告
・決算報告及び監査報告　・役員改選
・令和６年度事業計画案　・令和６年度予算案
・埼玉県産業教育振興会　川口支部会則

⑵　川口市児童・生徒・教職員発明創意工夫展
令和６年９月18日(水)～25日(水)
於：川口市立南平文化会館
・小学校196点、中学校115点の出品
・県展出品（小学校５点　中学校５点）
・特選受賞者の発表会を実施（９月25日）

作品展示の様子

発表会の様子

⑶　埼玉県児童・生徒発明創意くふう展
埼玉県発明協会会長賞、ＮＨＫさいたま放送局長賞、テレ玉賞、埼玉県小学校家庭科教育研究会長賞、埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞の５点入賞。

⑷　産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰
・推薦人数（小学校52名、中学校28名）
（事務局　西牧　孝子）

さいたま支部

⑴　さいたま支部総会
令和６年６月７日(金)於：大宮国際中等教育学校
○令和５年度事業報告及び決算・監査報告
○令和５年度産業教育研究委嘱校研究報告
浦和大里小・白幡中・浦和中・大宮工業高校
○令和６年度事業計画及び予算計画
○役員改選
○令和６年度産業教育研究委嘱状交付
浦和大里小・白幡中・桜山中・大宮国際中等

⑵　学校緑化コンクール：
学校緑化コンクール第1次審査
令和６年７月10日（水）
○審査校：２校　○推薦校：２校
◇第２次審査結果
優良校:浦和大里小、良好校:辻南小

⑶　市児童・生徒発明創意くふう展
令和６年９月14日(土)15日(日)
於：さいたま市青少年宇宙科学館
○市発明創意くふう展出品数
（小学校183作品、中学校84作品）
○県展出品数(小学校10作品、中学校11作品)
◇県展結果
（埼玉県中小企業団体中央会会長賞、埼玉県経営者協会会長賞、埼玉県小学校家庭科教育研究会長賞埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞）

⑷　産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰
○推薦人数
（小学校93名、中学校・特別支援学校63名）
（事務局：さいたま市立春野中学校　永谷和俊）

北足立支部

⑴　常任理事会（令和６年５月22日）
埼玉県立伊奈学園総合高等学校において、令和６年度総会資料の検討、支部だより編集方針、支部会則を確認した。

⑵　北足立支部総会（令和６年６月19日）
埼玉県立伊奈学園総合高等学校において、令和５年度事業・会計報告等を行い、令和６年度支部役員の決定、事業計画案、予算案が承認された。

⑶　講演会（令和６年６月19日）
支部総会終了後、講演会を開催した。
演題：「社会と繋がる教育への挑戦」
講師：埼玉県立大宮工業高等学校
マイスター・ハイスクールCEO
（科学技術参与）　前田　稔　様

⑷　「産振北足立支部だより」第46号発刊
（令和６年６月）

⑸　児童・生徒発明創意くふう展(令和６年９月24日)
新都心ビジネス交流プラザにおいて北足立支部展を開催した。小学校47点、中学校46点の出品があったうち、小学校14点、中学校13点を県展へ出品した。そのうち４点（小学校３点、中学校１点）が入賞した。

⑹　産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰
小学校141校、中学校69校から申請があり、計210名の児童生徒が表彰された。

⑺　常任理事会（令和７年１月28日）
令和７年度北足立支部総会に向け、役員、事業・会務計画及び予算等について議事を審査した。　（事務局　若林　剛）

入間支部

⑴　入間地区小中学校児童生徒発明創意くふう展
入間地区小中学校児童生徒発明創意くふう

展には小学校170点、中学校198点の出展があった。審査の結果、県展には、小学校16点、中学校19点の作品を出展した。

⑵　小中学校優良卒業生表彰

西部教育事務所、各市町教育委員会の協力を得て、小学生124人、中学生97人の推薦を行った。

（事務局　山本　哲也）

比企支部

⑴　支部総会　令和６年６月25日(火)

国立女性教育会館にて令和５年度事業報告及び会計報告、令和６年度の事業計画及び予算審議等を行いました。

⑵　比企地区小学校家庭科、中学校技術・家庭科主任研修会　令和６年６月25日(火)

国立女性教育会館にて、主任研修会を実施しました。

⑶　比企地区発明創意くふう展

令和６年９月13日(金)に野本市民活動センターで行われ、県展に小学校４点、中学校３点の作品を選出しました。そのうち２点が全国大会に推薦されました。

⑷　授業研究会・実技研修会

・小学校家庭科教育研究会授業研究会

令和７年１月23日(木)に滑川町立月の輪小学校にて実施し、指導法などについて研究協議が行われました。

・中学校 技術・家庭科実技研修会

令和６年８月５日(月)に滑川町立滑川中学校にて実施し、指導法などについて研究協議が行われました。

⑸　産業教育小・中学校優良卒業生表彰

小学校６名、中学校15名を推薦しました。

⑹　広報誌「産振比企」54号の発行

（事務局　野口　大輔）

秩父支部

⑴　支部総会　６月19日

令和５年度の事業報告及び会計報告、令和６年度の事業計画案及び予算案等の審議をし、承認されました。

⑵　学校環境緑化コンクール　７月21日

地区審査を行い、秩父市立久那小学校を県審査に推薦しました。審査の結果、優秀校に選ばれました。

⑶　発明創意工夫展　９月11日

荒川農村改良センターにて小中合同で開催しました。

地区展出品数：小学校57点・中学校77点
県展出品数：小学校３点・中学校３点
県　入　賞：埼玉県知事賞
作品名　車いすタイヤふき「楽らくん」
長瀞町立長瀞第一小学校
５年　堀口　竜

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞
作品名　「秒で片付けられる魔法のマット」
秩父市立秩父第二中学校　２年　櫻井莉奈

⑷　小学校家庭科教育研修会

５月・６月・７月・９月・11月

指導案検討会３回、授業研究会３回を実施しました。

⑸　中学校技術家庭科・家庭科教育研究会

５月・３月　研究協議会を実施しました。

⑹　埼玉県及び秩父支部産業教育振興会優良卒業生表彰者

県表彰　：小学校６名・中学校12名
支部表彰：小学校６名・中学校12名
　　高等学校　　11名
　　特別支援学校１名

以上の児童生徒を推薦・表彰しました。

（事務局　斎藤　晴樹）

児玉支部

⑴　支部総会（７月５日）

本庄市児玉文化会館（セルディ）において開催し、令和５年度事業報告、決算報告、令和６年度事業計画、予算案について審議した。令和６年度は、賛助会員51の団体や企業から417口の協賛をいただいた。

⑵　産業教育担当者研修会（７月５日）

支部総会後に小学校部会と中学校部会に分かれ、担当者会議を実施した。

⑶　学校環境緑化コンクール（７月16日）

小学校２校、中学校１校の審査を行い、本庄市立北泉小学校を代表として県審査に推薦した。埼玉県学校環境緑化コンクール良好校を受賞した。

⑷　児童生徒発明創意くふう展(９月15日)

本庄市立共和小学校で児玉支部審査会を開催（小学校162点、中学校54点出品）し、小・中学校共に３点を埼玉県児童生徒発明創意くふう展に出展した。上里町立賀美小学校２年生が埼玉県小学校家庭科教育研究会長賞、本庄市立本庄南中学校３年生が埼玉県産業教育振興会長賞を受賞した。

⑸　産業教育小・中学校優良卒業生表彰

小学校20名、中学校８名を推薦した。

（事務局　山﨑　育樹）

大里支部

⑴　支部総会

７月４日に総会を熊谷市妻沼中央公民館に

おいて開催しました。総会後には、熊谷市立妻沼西中学校教頭　大山方住先生による講演会を行いました。

⑵　学校緑化コンクール

寄居町立寄居中、用土小、熊谷市立富士見中、大麻生小の４校が参加しました。県審査において、中学校の部で寄居中が優秀校、小学校の部で大麻生小が優良校に選出されました。

⑶　実技研修会

小学校家庭科が８月２日に熊谷市立別府小、中学校(家庭)が８月７日に熊谷市立妻沼東中、中学校（技術）が10月16日に深谷市立花園公民館で実施しました。

⑷　児童生徒発明創意くふう展・研究発表会

９月６日に熊谷市妻沼中央公民館にて作品審査会を行い、小学校６点、中学校６点を埼玉県児童･生徒発明創意くふう展に出品しました。埼玉県生徒研究発表会に寄居町立城南中学校が選ばれました。

⑸　授業研究会

小学校家庭科が12月３日に熊谷市立奈良小、中学校（技術）が１月16日に熊谷市立大里中、中学校（家庭）が10月８日に熊谷市立江南中で実施しました。

⑹　産業教育振興会小中学校優良卒業生

小学校51名、中学校29名が推薦されました。

（事務局　森　香明）

北埼玉支部

⑴　理事研究協議会及び総会を、羽生実業高校会議室において開催する予定でしたが、感染症予防の観点から書類審議となりました。書面において令和５年度の事業報告・決算報告・監査報告の承認ならびに令和６年度の役員（案）・事業（案）・学校環境緑化コンクール・児童・生徒作品展について審議され承認されました。

⑵　学校環境緑化コンクールを７月25日に小・中学校５校を訪問し審査しました。結果、行田市立西中学校と羽生市立岩瀬小学校を県大会に推薦致しました。

⑶　北埼玉支部児童・生徒作品審査会が９月19日にワークヒルズ羽生で行われ、小学生5名、中学生3名を県作品展に推薦致しました。

⑷　小・中学校優良卒業生に対する表彰を埼玉県に推薦致しました。小学校27名、中学校16名を推薦しました。

（事務局　長島　肇）

南埼玉支部

⑴　第１回理事・専門委員会合同協議会並びに総会（６月26日）県立春日部工業高校

・R５年度事業報告並びに会計の報告、Ｒ６年度事業計画並びに予算の審議等を行った。

⑵　学校環境緑化コンクール（７月23日）

・小学校４校、中学校４校の計８校を審査し、久喜市立青葉小学校、八潮市立中川小学校、春日部市立川辺小学校の３校を支部代表として選出し、県審査に推薦した。

⑶　第２回理事・専門委員会合同研究協議会（８月19日）県立春日部工業高校

・支部発明創意くふう展について協議、学校緑化コンクールの報告等を行った。

⑷　支部児童・生徒発明創意くふう展、生徒研究発表会(９月20日)春日部市視聴覚センター

・作品の部では、小学校30点、中学校29点　を審査し、小・中学校ともに10点を県展に　推薦した。研究発表の部では、中学校８点の中から１点を県発表会に推薦した。

⑸　産業教育振興会小・中学校優良卒業生表彰

・小学校（小中学校前期含）101名、中学校（小中学校後期含)54名を推薦した。

（事務局　齋藤　潤）

北葛支部

⑴　総会・理事会並びに研究協議会第1回実施委員会（６月）

・令和５年度事業報告、会計報告、監査報告

・令和６年度役員、事業計画、予算、研究集録配布について

⑵　学校環境緑化コンクール支部審査（７月）

・吉川市立中曽根小学校、三郷市立北中学校を県審査へ推薦

⑶　児童生徒発明創意くふう展（９月25日･杉戸農業高等学校）

・地区展の出品数は小学校15展、中学校16展

・小･中学校4点ずつ選出、県展へ推薦

⑷　管内視察研修会、工業系の実習等の授業見学と協議を実施（1月14日・三郷工業技術高等学校）

⑸　教員研究発表会並びに研究協議会（10月22日・幸手市立さくら小学校）

（令和６年10月　吉川・松伏班内で資料発表・松伏町立松伏第二中学校）小学校のみ研究授業と研究協議を実施

⑹　小･中学校優良児童生徒の推薦、表彰状の交付（小学校44校・中学校20校）

⑺　第２回実施委員会（２月12日・杉戸農業高等学校）

・令和６年度事業報告、会計中間報告

・令和７年度事業計画（案）

・研究集録第54号編集について

⑻　小・中学校優良生徒に対する表彰状の交付（２月12日）

⑼　研究集録第54号発刊（３月31日）

（事務局 倉林　尚生）

# 埼玉県産業教育フェア

【主催】
埼玉県教育委員会　埼玉県産業教育振興会

【共催】
(公財)埼玉県産業文化センター
(公財)埼玉県産業振興公社
(一社)埼玉県経営者協会

【開催期間】
令和６年１１月９日（土）

【会場】
ソニックシティ（大宮）地下展示場、
市民ホール、イベント広場、小ホール、鐘塚公園

【スローガン】
桜梅桃李（おうばいとうり）
～ふるさとから羽ばたけ交流と産業の輪～

【目　　的】
専門高校等の生徒による学習成果の発表等の活動を通じて、生徒の技術力・創造性や課題解決能力、コミュニケーション能力等の向上を図るとともに、産業教育の魅力と役割を紹介し、広く県民の関心と理解を高める。

【開催方法】
参集とWebによるハイブリット開催
参集：１１月９日（土）１日開催
Web：ホームページ５月上旬～３月末日公開
Instagram　６月中旬～公開

【チラシ・ポスター】

○チラシ・ポスター原画
新座総合技術高校　デザイン科
３年　橋谷田　望未

【実施内容】
1　会場
⑴　専門高校生による学習体験
○農業部会

スプラウトの栽培、コースターを作ってみよう、“見えない自然”を観察しよう、ぷかぷか酵母ビーズ

○工業部会

日傘グッズ制作､UVレンジオリジナルキーホルダー作り、ちからの不思議展、鳥人間シミュレーター、キラキラ七宝工芸、反射神経ゲーム、足場について勉強しよう！！､電子工作をしよう！、ミニ鉄道乗車体験、VR体験

○商業部会

ビジネスマナー学習・体験、シティ・プロモーション・チャレンジ、マイクロビットプログラミング体験

○家庭・看護・福祉部会

正しい箸の使い方､いろいろ福祉体験、シュガーアート体験、食事に関する小物を作ろう、松ぼっくりツリーをつくろう､手洗いチェッカー

コースターを作ってみよう

ミニ鉄道乗車体験

シティ･プロモーション･チャレンジ

いろいろ福祉体験

⑵　専門高校生と企業等が連携した学習体験
○農業部会：フラワーアレンジメント製作
テクノ・ホルティ園芸専門学校＆羽生実業
○工業部会：オリジナルキーホルダ製作
山本工機株式会社＆大宮工業
○商業部会：ラッピング体験
株式会社シモジマ、一般社団法人日本商業ラッピング協会＆鳩山、越谷総合技術

○家庭・看護・福祉部会：マジパン製作
香川調理製菓専門学校＆新座総合技術、
鴻巣女子

園芸雑貨小物つくり

ラッピング体験

⑶　学習成果物の販売（鐘塚公園）
○農業部会：農産物・加工品の販売
熊谷農業、秩父農工科学、杉戸農業、いずみ、
川越総合
○商業部会：開発商品等の販売
熊谷商業、岩槻商業、皆野、大宮商業、
○アイデア弁当販売
レシピ考案：川越総合　販売：生徒実行委員会

農産物販売(農業)

商品販売(商業)

アイデア弁当

⑷　各種コンテスト、表彰式
①アイデアロボットコンテスト
・相撲ロボット（自立型部門、ラジコン型部門）
・ライントレース(アドバンス、ベーシック)

②商業部会コンテスト
・リテールマーケティング
③アイデア弁当コンテスト
「みんな大好き弁当」
④夢の電車イラストコンテスト
「回る！観光電車」

⑸お仕事図鑑pitchトーク（市民ホール）

オープニングトーク

pitchトークの様子

⑹専門高校○×クイズ、マイスター・ハイスクール発表会
チンドンパフォーマンス、應援團パフォーマンス

専門高校○×クイズ

マイスターハイスクール生徒発表

チンドンパフォーマンス（幸手桜）

専門高校応援（熊谷應援團）

## 2　Ｗｅｂ

⑴　生徒実践発表動画
○農業部会：杉戸農業、熊谷農業、いずみ
○工業部会：三郷工業技術
○商業部会：所沢商業
○家庭・看護・福祉部会：誠和福祉

⑵　専門高校紹介
専門高校の紹介動画、各部会紹介動画

⑶　生徒実行委員会活動報告
生徒実行委員会では、４回の委員会を実施

生徒実行委員会

ホームページ（生徒実践発表）

Instagram

## 3　成果

○当日来場者及びＷｅｂページアクセス数
・約１，３００名
・ホームページアクセス数
約７１，２４３アクセス
（令和６年１１月９日）
・Instagramフォロワー数
２０６件（令和６年１１月９日）

# 令和6年度　本会事業報告

1　会議の開催

⑴　会計監査

令和６年４月24日(水) 商工会議所連合会他

⑵　第１回常任理事会

産業教育功労者表彰式、理事会兼総会

令和６年６月７日(金) 埼玉会館

・令和５年度事業報告及び会計報告

・令和６年度事業計画及び予算案審議等

・令和５年度産業教育功労者表彰

⑶　第２回常任理事会

令和６年７月９日(火) 埼玉会館（Web）

本会及び産業教育振興中央会の産業教育功労者の選考等

2　講演会（専門高校長会と共催）

実施せず。

3　「埼玉産業教育」（会報）の発刊

第77号 令和７年３月

Ａ４判 16ページ 200部印刷

4　表彰事業（別頁詳細有り）

⑴　令和６年度産業教育功労者の表彰等

（令和７年度理事会兼総会で表彰）

◇産業教育振興中央会表彰　10人

◇本会表彰　13人

計 23人

⑵　令和６年度産業教育優良卒業生の表彰

◇産業教育振興中央会表彰　71人

◇本会表彰　1,208人

計 1,253人

⑶　令和６年度埼玉県高校生専門資格等取得表彰奨励事業による表彰

◇資格等取得による表彰　2,523人

◇全国的な活躍による表彰　5人

計 2,528人

5　コンクール、産業教育フェア等の実施

⑴令和６年度学校環境緑化コンクール

◇第一次審査（支部審査）

７月に、支部毎に実施

◇第二次審査（県審査）

（埼玉県緑化推進委員会定時総会にて表彰）

優秀校 ６校、優良校 ４校

良好校 ４校　計 14校

⑵　第64回埼玉県児童・生徒発明創意くふう展

期日 令和６年10月23日(水)

～令和６年10月24日(木)

会場　新都心ビジネス交流プラザ

主催 埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉県産業教育振興会、(一社)埼玉県発明協会

出品点数　小学校　80作品

中学校　80作品

本会会長賞 ６点（別頁詳細有り）

⑶　第34回埼玉県産業教育フェア

期日　令和６年11月９日(土)

掲載　https://www2.spec.ed.jp/krk/sanfair/

内容　14・15ページ参照

6　支部振興事業

各支部において事業を実施

普通賛助会費の３分の２を、支部振興費として還元

7　産業教育振興中央会関係事項

⑴　令和６年度全国産業教育振興会連絡協議会役員会、令和６年度全国産業教育振興会連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議（参集型並びにオンライン開催）

期日　令和６年５月23日（木）

⑵　令和６年度定時評議員会

期日　令和６年６月18日（火）

⑶　第66回全国産業教育振興大会

令和６年10月26日(土)

ライトキューブ宇都宮

⑷　令和６年度臨時評議員会(Web開催)

令和７年３月10日(月)

埼玉産業教育（第７７号）
発 行 所　埼玉県産業教育振興会
(事務局)　埼玉県教育局県立学校部
高校教育指導課 産業教育・キャリア教育担当
所 在 地　〒330-9301
さいたま市浦和区高砂3-15-1
電　　話　048-830-6769
印　　刷　関東図書株式会社